

デジタル教科書を活用した音読活動と学習評価 (7~9年生, ラウンド3)

①読む ②個・学 ③TV ③デジ教 ④Google Classroom

【ここがポイント!】

①「デジタル教科書をフルに活用」

生徒はデジタル教科書を使用し、単語や本文の音声を何度も確認し、聞いた音声を模倣しようとする中で自信を持って音読練習に取り組む。

②「録音・録画機能の活用による学習改善」

生徒は「音声を模倣したり、登場人物になりきって読んだりする」というゴールに向かって、デジタル教科書の音声と自分が録音した音声を比較し、自己調整しながら学習を進める。

③「パフォーマンステストの評価基準の共有」

教師は Google Classroom で生徒とパフォーマンステストの評価基準を共有する。生徒は、本文を音読した音声を録音し、Google Classroom に提出する。

【実践の目標】

自信を持って〇文(自分で定めた目標)以上読むことができる。

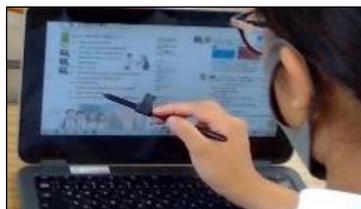
【実際の場面】

1. 大型テレビでポイントを共有する

教師はそれぞれの Unit の初めに、教科書の本文を大型テレビで表示し、英文を見ながら音と文字の一致を行った。読んでいる部分が明確化され、目や指で英文を追おうとする生徒の姿が見られた。

2. 音声をくり返し聞きながら目標を設定する

生徒は一斉に音声を聞きながら、デジタル教科書の読めそうな文や単語にマーカーを引いたり、印を付けた。デジタル教科書の書き込みを基に「〇文以上読む」という目標を持って音読練習に取り組んだ。



3. 自分のペースで音読する

デジタル教科書の音声を聞いて、各自のペースで音読をした。スピードを調整してシャドーイングする生徒や、新出単語を繰り返し聞いて発音する生徒など、自分に合った方法で音読をしている姿が見られた。ストーリーの内容が聞き取れない生徒は、ドラマやピクチャーカードを見ながら内容理解を進めた。

4. デジタル教科書の音声と比較する

録音した音声を聞きながら教科書本文を見て、正しく読めているか、すらすら読めているかを確認した。自分の発音を聞き、納得がいくまで何度も撮り直し、改善を行った。また、デジタル教科書にマーカーを引いた部分が本当に読めているのか、デジタル教科書を見ながら音声の確認を行った。最後に Google Classroom を用いて音声を提出した。生徒は自己の学習を振り返り、「〇文以上読めていた」「〇〇という単語が難しかったけど読めるようになった」など達成感を感じていた。

5. 学習評価を行う

Google Classroom に音読の評価基準を載せ、生徒と共有した。授業者は Classroom に提出された音声について評価を行った。録音・録画の機能を用いることで評価にかかる時間を短縮するだけでなく、生徒の音声や映像を繰り返し聞いたり視聴したりすることができた。

【成果と課題】

【成果】

- 生徒が録音した自分の音声とデジタル教科書の音声を客観的に比べながら学習を進めることができた。
- デジタル教科書の音声のように読もうとしたり、感情を込めて読もうとしたりする生徒が増えるなど、読むことへの意欲が高まった。

【課題】

- ほとんどの生徒は自分で考えて音読練習に取り組むことができていたが、何度も聞いたり練習したりしても分からないという生徒もいた。自分で学習方法が決められない生徒への適切な声かけが必要だと感じた。

福山市立鞆の浦学園

